

終末の事柄-VI (Eschatology Issues VI)からの抜粋翻訳

<https://ichthys.com/mail-Eschatology-Issues-VI.htm#the%20tribulational%20overlap%20or%20the%20Church%20and%20Israel%20sharing%20the%20last%207%20years,%20the%20tribulation>

質問 #4:

ボブ先生

私は先生の「人類史の七日間」という年代論を学んでいて、ユダヤ時代から七年間
が欠けていることに気づきました。その説明として、そのユダヤ時代の最後の七年間
が患難期に起こるとされています。そうであるなら、私たちは現在教会時代にいます。
しかしユダヤ時代においてはモーセの 613 の律法を守ることが求められていたが、
教会時代において私たちはイエス・キリストの恵みの下に生きています。そうすると、七
年間の患難期が来たとき:

- (1) 教会時代は終わり、ユダヤ時代の最後の七年間が始まり、その期間には神殿が再
建され、律法の遵守が再開されることとなります。その間、すべてのクリスチャンは恵み
の下にあることをやめ(ユダヤ時代のように)、私たちも律法を守ることが要求されるこ
とになります。
- (2) 恵みによって救われたすべての人は、患難期が始まる前に天に取り上げられるこ
とになります。

キリストの恵みがユダヤ時代最後の七年間においても働き続けると考えるのは混乱
を招き、両立しません(特に過去 1993 年間に於いて、そのようなことは一度もなかった
ことを考えると)。したがって、最も単純な説明は、すべてのクリスチャンが患難期の始
まる前に天に取り上げられるということです。

私は以前、患難期後携挙を信じていましたが、これは患難期前携挙を信じる非常に
合理的な理由だと思います。この問題について、ぜひ心を開いて考えていただきたい
と思います。

キリストにある兄弟より

返信 #4:

実際には、私はこの七年間を「両時代が共有する期間」と教えています。詳細につ
いては、「[患難期との重なり](#) (The Tribulational Overlap)」をご覧ください。

いずれにせよ、ユダヤ時代と教会時代との区別はしばしば誇張されています。という

のは、「教会」の復活は一つしかなく、その時にはイスラエルと、それ以前の異邦人たち、そして本来の意味での教会(すなわち、過去二千年間の主として異邦人から成る集団でありながら、実際にはユダヤ人と異邦人の両方から成る集団)とが、すべて共に復活するからです。アダムとエバから艱難期最後の信者に至るまで、すべてが一緒に復活するのです。言い換えれば、「ディスペンセーション(経綸)」は重要ですが、その意味するところと意味しないところについて大きく誤解されているのです(「[ディスペンセーション](#)」を参照してください)。それらは主として、神の真理がどのように配分されるかに関係しています。しかし神の真理は、人類史のあらゆる時代において恵みによって与えられてきました。さらに言えば、これまで救われたすべての人間は神の恵みの受益者です。また、パウロが思い起こさせているように、アブラハムは割礼以前に救われましたし、律法が与えられたのはアブラハムから何年も後のことでした。主の再臨前最後の七年間が、現在の時代を終わらせると同時にイスラエルの時代をも終わらせる共有期間であるという事実は、主としてユダヤ人が再び教会において指導的役割を担うことを意味します。それは神の恵みが何らかの形で減少することや、異邦人信者が律法を守らなければならなくなることを意味するものではありません(そのようなことを示唆する箇所は聖書のどこにもありません。モーセ以前のユダヤ人たちも、律法が存在しなかった以上、律法を守ってはいなかったのです)。ですから私は、この議論は一種の極端なディスペンセーション主義に基づくものであり、その前提自体が聖書的とは思えません。たとえその前提を認めたとしても、艱難期が両時代の共有期間であるという事実が、その問題を解消してしまいます(仮に問題が存在するとしても)。

私は何事についても喜んで心を開いています——ただし、神の御言葉の真理が確実である場合を除いては。そしてこの件については、聖書の証言は非常に明確です。患難期前の携挙はありません(この件に関する最近の論考については「[No Rapture](#)」をご覧ください)。

私たちは主の御言葉によってあなたがたに伝える。主の来臨(パルーシア parousia)まで生き残っている私たちは、眠った人たちに決して先立つことはない。(第一テサロニケ 4 章 13 節)

私に教えてください。それはいつ起こるのですか。また、あなたの来臨(parousia)と世の終わりには、どんなしるしがあるのですか。(マタイ 24 章 3 節)

主の来臨(parousia)は、もう一回しかありません。すなわち再臨です。その時、私たちは空中で主を迎えるためによみがえるのです。私たちが息をのむ思いで望む愛する主イエスにあって、

ボブ・L.